

# 住民視点における環境変化と生業動態

## ～サヘル地域タカバングウ村における砂漠化防止活動を事例として～

瀬戸 進一

キーワード：環境、砂漠化、住民、サヘル地域  
住民視点、再構築

### 1. サヘル地域

自然基盤として脆弱なサヘル地域は、異なる生業形態を持つ多彩な民族の生業活動により影響を受けやすく、それが砂漠化に繋がる。促進された砂漠化は住民により環境に負担を与える生業活動を強いることとなり、砂漠化と生業動態間に悪循環をうむ。目的対象者を住民とし、その健全な生活を維持する環境を構成するためには住民の視点が不可欠なものとなる。

### 2. 圃場内における樹木に関わる要因の抽出、測量による浸食状況確認

生業を行なう住民の視点から圃場内で樹木とその周囲が構成している環境に関わる要因を抽出し、それぞれに住民の評価を加え再構築する。計画決定者が住民にとって有益な計画を立てるためには、直接意見をきく手法ももちろん可能ではあるが、住民自身が経験などにより組み立てている樹木に対する評価をその要因ごとに把握することも重要である。タカバングウ村では植樹箇所の選択は住民が決定する形式をとっており、農作物が栽培できる箇所への植樹を望まない住民が多いため、植林に不適當な区域が選ばれることが多い。実施した植林結果は芳しくない。

住民が許容できる圃場内の樹木の在り方を理解し、植林を希望する計画決定者にとっては圃場を含めたより望ましい環境への植林を可能とし、圃場内の植林を好まない住民には不利益な点を最小限に有益な点を最大限に活かす形態を相互理解できる形で提言する必要がある。実は補完的な目的で計画した調査であるが、思わぬ結果を得たのでひとつの手法を見出す調査として扱う。

用意した質問は、1. 圃場内の樹木をどう思うか？2. 圃場内で優良だと思われる樹種、不適當な樹種はそれぞれ何か？この2点だけであった。しかしそれぞれに条件をつける農民が続出し、それらを聞き取り、のちに整理したところ、「1. 適當・不適當の別なく農民の意識に残る樹種」、「2. 樹種ごとの評価」、「3. 樹木により発生する浸食に関して考えるところ」、「4. 樹種以外の評価の基準」、「5. 圃場内の樹木の管理について」と5項目増えたことに加え、様々な条件での細かな基準をしることとなった。

補完的な目的で具体的な質問を用意していなかったため、逆に予期しない情報を得ることができた。アンケートという、のちの分析を容易にするためにも具体的な項目が多く用いられる。しかし事前に今回のように明確でない質問をすることで、あらたな基準をえることが可能となることを考えると、対象グループの基準を得る目的で抽象的な質問をすることによって、作為的でない結果をえることを可能とする。このような手法は『参加型調査法』と通じるものがある。さらに同じ基準が、植林目的が変わると価値もまた変わる場合がある。特に樹冠の『遮光』能が、圃場内であっても益になる場合と不適當となる場合とがある。農民の向ける関心によって、同一の特性をもつ樹木が「良い樹木」にも「悪い樹木」にもなることがわかり、これにより単に聞き取りと樹種の選定や植林方法の構成のみではなく、圃場の条件によって大きく変動する基準で、農民所有の圃場の条件の確認が必要となる。また今回の調査で特殊だったのは、圃場の樹木の価値に管理の有無を条件とした者がいたことである。圃場内の測量、長老からの聞き取り、航空写真による全域の時系列における比較を補完的に行ない、住民から緑のサヘルの植林活動に対する考えをきかせてもらった。以上の情報を構成したものをこの論文の結論とする。